



2025

国語

注 意

1. 試験時間は、8：50～9：40の**50分**です。
2. 問題は㊦から㊨まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

転校生である鳴沢イリスは、英語しか話せないふりをして学校生活を送っていた。鳴沢は英語が扱える「おれ」（佐倉ハル）とだけ仲良くしていたが、あることをきっかけに「おれ」とも仲違いをしてしまい、そのままアメリカに帰国することとなった。「おれ」は自分の思いを伝えるために風船ロケットを作ろうと考え、その費用の相談を両親にすることにした。

おれが風船ロケット二号にこだわるのは、それを通じて、どうしても鳴沢に伝えたいことがあるからだ。

でも父さんが言った通り、いまおれの胸の奥にある言葉を鳴沢に伝えるのに、風船ロケット二号が絶対に必要なわけではない。それは、素直に認める。

おれが彼女に伝えようとしていることは、所詮は単なる言葉の連なりでしかない。感情や想いなんてものはどんなに複雑なものであっても、言葉にできるものだ。アウトラインを伝えるだけなら、口頭でもメールでも手紙でも手話でも筆談でもなんでもいいと言え、その通りだ。

でも。

それでもおれは、必死に考える。

なぜ、おれはこんなにも風船ロケットが必要だと感じているのか。

どうして、自分の力の結晶であることが最大の誇りである風船ロケットに、こうして両親の力を大きく介入させてまで、それを完成させたいと思っているのかを。

そのとき、不意に。

——バリアー。

そんな奇妙な単語が、おれの手元に降りてくる。

そう。

あいつはバリアーを張っているんだ。

その一言を引き金とするかのように、今まで曖昧模糊(注)あいまいもことしていた自分の考えが、じんわりとその輪郭りんかくを見せてくる。それを見逃すみのがことも、見過ごすこともないように、おれは必死に、どれだけ時間をかけてでもしつかりと言葉として紡いでいく。

おれは英語ができたから、日本語が上手く話せないふりをしていた鳴沢とも、それなりにコミュニケーションをとれた。でも、本当は英語ができるとかできないとか、それはすごくどうでもいいことだと思う。

たとえば、三好は英語はわからない。けれど、あいつはそれでもおれなんかよりずっと器用に鳴沢と打ち解けようとした。でも、それもあまり上手くはいかなかった。それはきつと、^①鳴沢がいつだつてバリアーを張っていたからだ。

おれの遅々とした説明を前にして、

「それは、いわゆる^②言葉の壁かべというバリアーのことかい？」

父さんはそう尋ねるけれど、それはちよつと違う。

おれはもう少しだけ考えてから、さらに伝える。

そうだな、おれが鳴沢との間に感じているバリアーというのは、言葉の壁というわかりやすく単純なものではなく、

「たぶん、言葉そのもの」

ひどく自由奔放ほんほうに見えて、呆れるほどに勝手気儘きままに思えて。

あいつはきつと、色々な意味で言葉というものに縛られすぎている。

アメリカとか日本とか。

宇宙飛行士、だとか。

あるいは、話せるだとか、話せないだとか。

壊してやりたい。

本当はそんなもの、何にも関係がないのに。あいつのふざけたバリアーに頭から突っ込んで、ぶっ壊してやりたい。

そのために、どうしても必要なんだ。

あいつが無敵だと信じているそのバリアーを貫くための唯一ゆいいつのミサイルこそが、おれの^③風船ロケット三号なんだ。果たして。

そんな、おれのいかにも子供じみた幼稚な訴えは、目の前の大人二人の瞳には一体どのように映ったのだろうか。

「母さん、どうしようか」

隣に座る母さんに視線を送りつつ、父さんは柔和な笑みを浮かべながらそう尋ねる。

そんな父さんとは X 的に、^④ 母さんの目つきは鋭いままだ。抽象的な話であることは間違いないし、母さんに理解できないのも、無理はないけどさ。

「バリアーって言うけれど」

なんてことを、思っていたら。

「ハル自身のバリアーは、どうでもいいの？」

そんな、意味のよくわからないことを口にしてくるものだから、おれはわずかに ^a 眉尻を上げて反撃する。おれは別に、鳴沢に対してバリアーを張っているつもりはない。

「鳴沢さんに対してのバリアーじゃないわ」

おれの言葉を遮るように母さんはかぶりを振って、

「私と父さんに——特に、私によ」

その、あまりに予想外の母さんのその言葉を前にして、^b 二の句が継げなくなる。上手く身体が動かず、言葉をすぐに返すことができない。

「ハル。きつとあなた、私に話しかけるとき自分がどんな酷い顔をしているかなんて、ちっともわかってないんでしょ？」

そんなおれに、母さんは瞳に涙を溜めながら震えた声で感情を吐露する。

「あなたが私に向ける目はね、母親に対するものじゃないの。まるでそう、同居人か何かだと思われているみたい。去年のあのときから、ずっとよ。そんなあなたが、どうして鳴沢さんのバリアーなんてものを取り払えるっていうの？」

……それは。

確かに、そういう見方もできるかもしれないけれど。

そんなこと言ったら、それは母さんだってそうじゃないか。おれを見ると、いつも変な笑顔で、妙に遠慮して。

「いいや、母さんはそんな顔はしてないよ。ハル」

母さんの隣で父さんが言葉を挟む。

してるよ。父さんにはわからないだけで。いつだって、^c 他^{（）}人行^{（）}儀^{（）}な笑顔をおれに向けてばかりじゃないか、母さんは。そんなふうには、おれは主張するのだけど、

「してないよ、ハル」

父さんは、ゆっくりと首を横に振って否定を繰り返す。

「でもね、ハル。もしもそんなふうに見えてしまっているのなら、それはきっと、ハルがそういう目で母さんのことを見ていたからさ」父さんのその一言を耳にした、直後。

何故かこのタイミングで、鳴沢のあの言葉が脳裏をよぎっておれは目を瞠^{みは}った。

——パパは仕事人間でね、ママはパパのメイドロボットなの。

——わたしのことなんて、いつもどうだっていいの。

違う。

全然、違ったはずだ。

そうじゃなかったはずだ。少なくともおれが目にした鳴沢のお父さんとお母さんは、彼女が言うような存在では少しもなかった。

……同じことを？

まさかおれも知らないうちに、鳴沢と同じ間違いをしていたというのか？

自分の幼稚さを分厚いレンズにして、目に見えるものを、自分の都合の良いように屈折^{くせつ}させてしまっていたというのか。

⑤ 浮かび上がった可能性を前にして、おれが驚愕^{きやうがく}と困惑^{こんわく}のうちに視線を上げると、

「世の中の母親がみんなそうだななんてわかったふうなことは、言いません」

目の前で、母さんが泣いていた。

鳴咽^{（注）おえつ}を漏らし、元からさほど美人でもないその顔をさらに歪^{ゆが}めながら、大人のくせに、しゃくり上げるように。

「でも少なくとも私は、どんなことがあっても自分の子どもを憎^{にく}んだりなんかしない。たとえこの店が潰^{つぶ}れても。あなたにどれだけ、誤解されていたとしても。それでも、自分の子どもを憎^{にく}んだりなんて、するもんですか」

ようやく。

そこまで伝えられてようやく、おれは気づく。

見透かされていたのだと。

去年の事件以来、母さんは心のどこかでおれのことを憎んでいるのだと、そんな歪んだ考えをおれが抱いていたことを。

でも、そうして見透かしたうえで、母さんは何も言わなかったのだ。自分の瞳の表面が歪いびつになっていることに、おれが自分自身で気づくそのときまで、じつと耐たえて。

言葉が見つからなかった。

何か上手い言葉があるはずだろうと必死に考えたけど、ダメだった。

憎まれているなんて思っていない。

少なくとも、今はもう、ほんの少したりとも。

そう伝えたかった。

けれど今は、その想いをどんな言葉で伝えても、取り繕つくろうような、嘘うそくさいようなものになってしまう気がして、どうにもならなくて。おれもただ、母さんと同じように静かに⑥涙を流すくらいのことしかできなかった。

(八重野統摩『ペンギンは空を見上げる』による)

(注1) 風船ロケット…成層圏せいそうけんから地球を撮影さつえいするためにハルが自分の手で作っているロケット。

(注2) 曖昧模糊…はつきりせず、ぼんやりしているさま。

(注3) 柔和…優しくおだやかなこと。

(注4) かぶり…あたま。

(注5) 吐露…考えていることをつつみかくさず述べること。

(注6) 去年のあのとき…小学五年生の時に、クラスの生徒が「おれ」だけでなく、幼なじみの三好もいじめたことに腹を立て、その生徒に暴力をふるう事件を起こした。

(注7) 嗚咽を漏らし…声をつまらせて泣くこと。

問一 波線部 a ～ c の言葉の意味としてもつとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

a 眉尻を上げて

- | | |
|---|-------------|
| ア | 驚きとまどった表情で |
| イ | 怒って険しい表情で |
| ウ | 困って暗い表情で |
| エ | 不満であきれた表情で |
| オ | 恐れに立ち向かう表情で |

b 二の句が継げなくなる

- | | |
|---|------------|
| ア | 何もできなくなる |
| イ | 何も考えられなくなる |
| ウ | 何もやる気がなくなる |
| エ | 何も聞けなくなる |
| オ | 何も言えなくなる |

c 他人行儀

- | | |
|---|--------------|
| ア | ていねいにふるまうさま |
| イ | なれなれしくふるまうさま |
| ウ | よそよそしくふるまうさま |
| エ | かいがいしくふるまうさま |
| オ | らんぼうにふるまうさま |

問二 空欄 X に入る言葉としてもつとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 対照 イ 総合 ウ 悲観 エ 樂觀 オ 合理

問三 傍線部①「鳴沢がいつだってバリアーを張っていた」とありますが、どういふことですか。その説明としてもっとも適當なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 関係のない言葉を並べ立てることで、日本語を話せないふりをして、周囲の人間と関わらないようにしていたということ。
イ いろいろな意味で言葉に縛られることで、「おれ」だけと関わるといふ自分勝手な行動をとっていたということ。
ウ 自分の中にある言葉にこだわることで、自分の行動を制限したり、他者を決めつけて拒絶したりしていたということ。
エ 英語しか話せないということで、他のクラスメイトから距離をおき、両親にも心を閉ざしてしまっていたということ。
オ 言葉というものに縛られすぎること、で、「おれ」とのコミュニケーションですらうまくいかなかったということ。

問四 傍線部②「言葉の壁」とありますが、「鳴沢」の「言葉の壁」を父はどのように解釈したと考えられますか。本文中の言葉を使って、五十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部③「風船ロケット三号」の打ち上げに「おれ」がこだわるのはなぜですか。その理由としてもっとも適當なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 言葉の壁を作ってしまったっている鳴沢に自分の気持ちを伝えるためには、興味を引くようなしかけが有効だから。
イ コミュニケーションが上手くとれない鳴沢に思いを伝えるためには、言葉以外のものが妥当だから。
ウ 鳴沢との間に生じてしまったバリアーを解消するためには、メッセーj性の高いものが求められるから。
エ 言葉そのものにとらわれている鳴沢を解き放つためには、言葉ではない強いインパクトを持つものが必要だから。
オ ふざけた考えしか持てない鳴沢を説得するためには、子どもじみた幼稚な訴えのほうが効果的だから。

問六 傍線部④「母さんの目つきは鋭いままだ」とありますが、このような目つきから母親のどのような思いが読み取れますか。五十字以内で説明しなさい。

問七 傍線部⑤「浮かび上がった可能性」とありますが、どのようなことを指していますか。具体的に五十字以内で説明しなさい。

問八 傍線部⑥「涙を流すくらいのことしかできなかった」とありますが、このときの「おれ」の気持ちの説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 自分の感情だけをぶつけて涙を流す母親に対して、悲しさと寂しさの感情を抱いている。
- イ 自分を理解してくれていた母親に感謝の言葉を伝えられず、悔しさと戸惑いを感じている。
- ウ 自分をどんな状況でも見守ってくれた母親に気づいて、申し訳なささと安堵感を抱いている。
- エ 自分を誰よりも愛してくれていた母親に対して、うれしさと感謝の思いがこみ上げている。
- オ 自分に抱いていた本心を初めて明かしてくれた母親に対して、驚きと喜びを感じている。

問九 本文の説明として適当なものを次の中から二つ選んで、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 親の思いを子どもは気づくことができないという一般的な親子のあり方が描かれている。
- イ 鳴沢のことを真剣に考える過程の中で、「おれ」が自らを省みる様子が描かれている。
- ウ 「おれ」から見た母親の描写によって、母親に対する強い憎しみが表されている。
- エ 父親の柔和で優しい人柄が、「おれ」の唯一の救いだったことが暗に示されている。
- オ 一文を短く、改行も多くすることで、複雑な人間関係がわかりやすく示されている。
- カ 「おれ」の視点から語ることと、「おれ」の心中をくわしく理解できるようにしている。

二 次の文章は、筆者が中高生に向けて行った授業での話をもとに書かれたものです。文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① テレビの時間と本の時間

テクノロジーの文字を読まされて過ごす時間と、活字を読んで過ごす時間とは、いったいどこが違うだろうか。

一度テレビを見はじめると、僕たちの意識はテレビの映像に向かって、ずっと駆動しつづけます。僕たちが気がつかないところで、つぎつぎと「小さな現在」を奪われていくからだ。これは、自分で意識を動かそうとしなくても、受動的・自動的に意識がつくられていくということです。ただ、これは、見たり聞いたりという知覚のレベルでのことで、意志のレベルでの「受け身」とは同じではないということも確認しておこう。

一方、本を読むときは、自分で意識を動かしていかなければ読み進めることができません。それをやめてしまうと、本は進んでくれない。本を読むときは、たとえ音読しなくても、頭のなかで自然と声に出して読んでいくよね。僕はそれを「意識の声」と呼んでいます。自分で意識をはたらかせたときに聞こえてくる声だからね。君が読んでいる文章はもちろん作者が書いたものだから、そこに書かれているのはたしかに作者の声だ。でも、それを読むには、君の力を必要とする。だからその声は半分は君の声でもあります。この声が聞こえるとき、つまり読んだり書いたりしているときというのは、君自身が、自分のことばの活動を活性化させ、意識をはたらかせているということなんだ。

I、テレビを見ているときに聞こえるのは、きつとタレントや司会者の声で、そこに君の声はないよね。こんなふうに、テレビを見て過ごす時間と、本を読んで過ごす時間というのは、意識の成り立ち方が違うということがわかってもらえたかな。

(中略)

② 物事を考えるには、まず考える対象を抽象化し、概念としてとらえることができないといけないのだけど、
③ それをするのは「ことば」のはたらきです。そして、「ことば」の力を育ててくれるものが、本なんだ。

夏目漱石(注2)を読んでいて、なにか知らないことばに出会ったでしょう。たとえば仮に「花」だとする。実際は、もっと難しいことばだろうから、最初は辞書を引く必要があるかもしれない。でも僕たちは、一度「花」という新しいことばを覚えれば、夏目漱石のその作品がよりよく読めるようになるだけじゃなく、次に漱石の別の作品や森鷗外(注3)や志賀直哉(注4)に、「花」ということばが出てきたとしてもその意味を理解できるようになる。

II、一般的な「読解能力」がアップしたということだ。

それだけじゃなく、「花」ということばを使って文章を作って自分の考えを表現したり、「花」という概念をめぐって考えてみることもできるようになります。だから、^④「読む」力というのは、ことばを通して、「書く」力や「考える」力につながっているんだ。

なぜそんなことが可能なのかというと、ことばというのが、ただひとつの具体的なものを指すのではなくて、抽象的なものを表すものだからだ。「花」ということばは、バラもユリもチューリップもすべて、その意味のなかに含んであります。それだけじゃなく、実際にそこに咲いているバラや、あつちに活かしてあるユリも、「花」ということばで表すことができます。

ことば以外のものには、この力はありません。たとえば、映像と比べてみよう。テレビに花の映像が映し出されている場合、別に辞書を調べなくても、その映像が示したいものは見ればわかります。でも、それはつねにどこかの庭や公園に咲いている、ある特定の花を表しています。「このピンクのチューリップ」だったり、「その白いユリ」というふうにな。いま映っているピンクのチューリップを、あの赤いバラを表すのに使うことはできない。映像というのは、それをいくらたくさん見ても、個々の具体的な「事例」についての知識が増えるだけで、一般的な「映像能力」みたいなのをアップさせることはできないんだ。

Ⅲ、映像だけでは、ことばのように自由に思考を組み立てることはできない。

本を読んで、自由に使いこなせることばの数や表現の種類を増やしていけば、思考する力や世界を理解する力を高めることができる、という考え方には、だから十分な理由があると僕は思う。そういう意味で、^⑤「文字は人間を自由にする」というのは正しい、と考えているんだ。

(石田英敬^{ひでたか}『自分と未来のつくり方——情報産業社会を生きる——』による)

(注1) テクノロジーの文字…筆者は、人間が読み書きする文字とは違い、機械が書き出す人間には見えない映画の一コマやテレビの電気信号のことをこのように呼んでいる。

(注2) 夏目漱石・(注3) 森鷗外・(注4) 志賀直哉…いずれも近代の小説家。

問一 二重傍線部「意志」とありますが、「意」と「志」のように似た意味の漢字を組み合わせた熟語を次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 音読 イ 開閉 ウ 作品 エ 思考 オ 必要

問二 空欄Ⅰ～Ⅲに入る言葉としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

- ア あるいは イ そして ウ だから エ だけど オ つまり カ では

問三 傍線部①「テレビの時間と本の時間」とありますが、本文全体を読んで、テーマであるこの関係を表にした場合、

(i) 空欄W・Xに入る言葉としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 受動的 イ 抽象的 ウ 自動的 エ 一般的 オ 具体的

(ii) 空欄Y・Zには意識の成り立ち方の説明が入ります。それぞれ二十五字以内で説明しなさい。

		テレビ	本
	映像	ことば	
	W なものを表す	X なものを表す	
意識の成り立ち方	Y	Z	

問四 傍線部②「物事を考えるには、まず考える対象を抽象化し、概念としてとらえることができなさいといけない」とありますが、次の言葉のグループを「抽象化」すると、どのような言葉で表すことができますか。それぞれ答えなさい。

ア いちご・ぶどう・みかん・りんご

イ コーラ・コーヒー・お茶・お水

ウ 電車・バス・車・自転車

問五 傍線部③「それをするのは『ことば』のはたらきです。そして、『ことば』の力を育ててくれるものが、本なんだ」とありますが、筆者はなぜ「本」が「『ことば』の力」を育てると考えているのですか。「『ことば』のはたらき」に触れながら、七十五字以内で説明しなさい。

問六 傍線部④「『読む』力というのは、ことばを通して、『書く』力や『考える』力につながっているんだ」とありますが、筆者の主張の説明として適当なものにはA、不適当なものにはBを、それぞれ解答欄に答えなさい。

- ア 「読む」ことで外国語や異なる文化を学び、それを「書く」ことで国際力が深められる。
- イ 「読む」ことで文章構造や表現方法を理解し、それを「書く」ことで表現力が養われる。
- ウ 「読む」ことで様々な情報を吸収し、それを「考える」ことで新たな理解力が得られる。
- エ 「読む」ことで他者の視点や意見が分かり、それを「考える」ことで共感力が作られる。

問七 傍線部⑤「文字は人間を自由にする」とありますが、どういうことですか。筆者の主張としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 本を読むことで他者とことばの感情や思考を自由に共有することができるため、文字の習得で人は孤独から救われる。
- イ 映像は情報伝達に優れるが知識や経験を後世に自由に伝えることができないため、文字がなければ人間の文化が衰退する。
- ウ 映像を見ても情報を得て知識が深まるだけであり、文字がなければ人間は他者との自由なコミュニケーションができない。
- エ 映像を見ることが脳が活性化し考えを整理できるため、文字がなくても人間は考えを自由に発展させることができる。
- オ 本を読むことで言語能力が養われ自由に考えることができるため、文字がなければ人間は考えを巡らすことができない。

三

次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① カブシキ会社には多くの人が出資している。
- ② 方位ジシヤクは常に北を指す。
- ③ 日本のレキシでも織田信長は人気が高い。
- ④ 警察官がヨウギシヤを探す。
- ⑤ イネの穂は収穫期になると下にタれる。



注意 字数制限の問題では、句読点も一字として数えます。

問 題 集																								
問 九			問 八			問 七			問 六			問 五			問 四			問 三		問 二		問 一		
																							a	
																							b	
																							c	

[illegible]

受 験 番 号		フ リ ガ ナ	
		氏 名	

得点	
----	--

れる

第三回

解答用紙

注意
字数制限の問題では、句読点も一字として数えます。

得点	
----	--